

外国語の学習における縦と横の関係

柳 谷 保

本論の目的は、現在、鳥取大学で検討を進めている年度計画に、いくらかなりと寄与しようとするものである。筆者は、大学教育総合センターの専任教員であり、「外国語教育研究部」に籍をおいている。年度計画の課題は、「教材の有効利用及び教科毎の指導法の研究開発の推進」というものである。筆者はこの課題に対して、まず教科を「外国語」一般としたうえで、次に教材と指導法については、その具体化である「教材作成」ではなく、その前段階としての「学習内容」の座標軸上の「位置付け」にとどめる。「縦・横」のイメージ規定であるが、この場合、「縦」とは「経度」すなわち「プログレス」をいい、「横」とは「緯度」すなわち「インクリース」をいう。英語に例をとれば、

縦・プログレス: he is ➡ he was ➡ he has been ➡ he has been being etc.

横・インクリース: what; who; whose; whom; where; how etc.

となる。また、「横」の関係は、外国語間にも適用され、「教授内容」の相互関係を考慮し比較対照を行ううえでの参考となる。成績評価の調整にも役に立つかもしれない。

英語: 1) Good afternoon! How are you? 2) With whom? 3) What is that?

4) I am a Japanese.

独語: 1) Guten Tag! Wie geht es Ihnen? 2) Mit wem? 3) Was ist das?

4) Ich bin Japaner(in).

仏語: 1) Bonjour! Comment allez-vous? 2) Avec qui? 3) Qu' est-ce que c' est?

4) Je suis Japonais(e).

スペイン語: 1) ¡Buenos días! ¿Cómo está Vd.? 2) ¿Con quién? 3) ¿Qué es esto?

4) Yo soy japonés(japonesa).

ハングゴ: 1) アンニョン・ハシムニッカ? 2) ヌグワ・カチ? 3) クゴスン・ムオ

シムニッカ? 4) チョヌン・イルボンサラミエヨ.

(現在、本学に開設されている外国語は、本学の表記で、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、ハングルであるが、専任の教員がついているのは、英語、ドイツ語、フランス語、中国語である。筆者はドイツ語の教員であり、これまでいくつかの外国語を、基本的には独学で学んだが、中国語だけは勉強したことがない。また、ロシア語とイタリア語は、歯が立たなかった。筆者には、ラテン語とギリシャ語の知識が多少なりとあり、ラテン語と上記ロマンス語三言語の変貌との比較は、解れば解るほど楽しいものがあるが、所詮趣味の域を越えない。また、筆者のパソコンでは、スペイン語の頭の倒立疑問・感嘆符がでないので、?;!で代用した。ハングルもで

ないので、カタカナで表記した。学習の際に使用した辞書は、原則として、英独・独英、仏独・独仏、西独・独西、韓独・独韓、韓英・英韓のそれである。ハングッゴはまだ未熟である。)

はじめに、大学生が簡単に読めるであろう英文(英訳)の一節を紹介し、「縦横」の関係を論じた後、原文の仏文とその独訳を検討したうえで、初修外国語の文法事項を整理して、授業時間の制約と学習内容の限度について考察する。さらに前期30時間、後期30時間で学習可能な「縦横」の大枠を限定して、キー・ポイント(キー・センテンス、原型と類型)を抽出する。このキー・ポイントにしたがって、スペイン語とハングッゴの学習内容(項目)の相対化を、筆者なりの視点で試みてみたい。

§1. “Le Petit Prince” の英訳 “The Little Prince” の最終ページから。

This is, to me, the loveliest and saddest landscape in the world. It is the same as that on the preceding page, but I have drawn it again to impress it on your memory. It is here that the little prince appeared on Earth, and disappeared.

Look at it carefully so that you will be sure to recognize it in case you travel some day to the African desert. And, if you should come upon this spot, please do not hurry on. Wait for a time, exactly under the star. Then, if a little man appears who laughs, who has golden hair and who refuses to answer questions, you will know who he is. If this should happen, please comfort me. Send me word that he has come back.

この小文を理解したとしても、TOEIC で果して何点のレベルなのかはわからないが、相当低いレベルであるだろうと思う。むしろ「ランスケイプ」という発音が問題となろう。文法体系の「縦横」でいえば、

「縦」: this is ⇒ the little prince appeared ⇒ look at it ⇒ you will be sure to
 ⇒ if you should come upon ⇒ please do not hurry on ⇒ a little man (…)
 who laughs ⇒ you will know who he is ⇒ it is the same (landscape)
 as that on the preceding page etc.

「横」: 1) to me; in the world; on the preceding page; to impress on your
 memory; appeared on Earth; look at ; in case (…); for a time;
 exactly under the star etc. 【前置詞】
 2) this; the same as that; it is here that; so that ; the word that etc. 【指示詞】
 3) the loveliest and saddest landscape; your memory; this spot etc. 【修飾語】

「横」の「項」で人称代名詞は省いた。「縦」としては、現在人称変化、過去人称変化、助動詞 *you will be*、*if (you/this) should* 構文、肯定命令、否定命令、関係文、*that* 強調構文を確認した。以上の内容についていけない学生は、皆無であると思うが(発音のひどいのは、日本人だから眼をつむむとして)、これが初修外国語になるとそうはいかない。まず、原文のフランス語を、次にドイツ語訳を参照して、いかに困難であるかを、「縦横」の内容と、学習時間を考慮しながら考察する。

§2. 以下に、前章の英訳文のもとになったフランス語の原文を紹介する。

Ça c' est, pour moi, le plus beau et le plus triste paysage du monde. C' est le même paysage que celui de la page précédente, mais je l' ai dessiné une fois encore pour bien vous le montrer. C' est ici que le petit prince a apparu sur terre, puis disparu.

Regardez attentivement ce paysage afin d' être sûrs de le reconnaître, si vous voyagez un jour en Afrique, dans le désert. Et, s' il vous arrive de passer par là, je vous en supplie, ne vous pressez pas, attendez un peu juste sous l' étoile! Si alors un enfant vient à vous, s' il rit, s' il a des cheveux d' or, s' il ne répond pas quand on l' interroge, vous devinerez bien qui il est. Alors soyez gentils! Ne me laissez pas tellement triste: écrivez-moi vite qu' il est revenu...

さて、前章の英文と比較して、仏文の特徴を述べると、既修・初修の問題もあるが、それ以前のこととして、仏文の方が圧倒的に語形変化に富んでいる。初修外国語の最大の難関は発音だが、つまり、発音に始まり、それが永遠に続くのであるが(hearing and speaking)、ここでは発音には一切ふれないことにする。発音以外の問題として、フランス語の場合、先にふれた「縦・横」でいうと、「横」が複雑なのである。英語のもっとも複雑な不規則動詞 *to be* にしても、*be, being, been, am, is, are, was, were* 以外の語形をもたないわけだが、フランス語の場合、主語を「私」に限定しても、*je suis(I am)*, *j' étais(I was)*, *je serai(I' ll be)*, *je serais(I were/I' d be)*, *que je sois(that I be)* etc. と複雑であり、これが原則として、主語の人称・数が変わるとまた変化するのである。万事がこの調子で、英語の *come-came-come/bring-brought-brought* などは単調そのものである。「星の王子さま」の最終ページに絞って、フランス語の文法体系の一端を紹介してみよう。順を追って、解説していく。

- 1) *Ça c' est*: *ça* は「それ・これ」であり、仏語原文では右隣の(英訳では左隣の)砂漠の情景を描いた絵をさしている。中空にかなり大きな星が浮かんでいる。前ページの風景の絵との違いは、今まさに昇天しようとしてフワッと地上をはなれようとしている「小さい王子さま」の姿

が消えてしまっている点である。ça は cela の省略形で、ce 自体は指示代名詞 (this/that) である。

ce paysage この風景 cette page このページ ces pages これらのページ

この ce が主語となって est ないし sont と結びついたのが c' est/ce sont である。ここで「縦・横」の問題として以下の内容が学習課題となる。【指定詞:これは…だ(だった)】

je suis	nous sommes	j' étais	nous étions
tu es	vous êtes	tu étais	vous étiez
c'est	ce sont	c'était	c'étaient

- 2) pour moi: pour toi; pour lui; pour elle etc. 【前置詞と人称代名詞】
- 3) le plus beau paysage: le prince(the prince) ; la princesse(the princess) 【定冠詞】
le plus beau(the most beautiful) 【形容詞最上級】
- 4) du monde: du mond (de le mond の組み合わせ); de la classe 【前置詞と定冠詞の融合】
- 5) le même paysage que: the same landscape as 【比較表現】
- 6) celui de/ celle de(that of); ceux de/ celles de(those of) 【指示代名詞】
- 7) la page précédente: le train précédent(cf. un étudiant/une étudiante) 【性別】
- 8) mais je l' ai dessiné une fois encore: 【複合過去・否定・目的格代名詞の位置】

j'ai	nous avons	j'ai dessiné le paysage
tu as	vous avez	je n'ai pas dessiné ce paysage
il a	ils ont	je l'ai dessiné (l'=le=ce paysage)

- 9) pour bien vous le montrer: montrer bien quelque chose à quelqu'un 【不定詞句】
- 10) le petit prince a apparu sur terre, puis disparu: apparaître(appear)
disparaître(disappear)
je parais nous paraissions 【(ap/dis)paraître】
tu parais vous paraissez
il paraît ils paraissent
- 11) regardez: 【肯定命令】
- 12) attentivement: attentif/attentive; ラテン語 mens(心・風情)の5格 【副詞的表現】
- 13) afin de inf: 【目的】
- 14) être sûr(e)(s) de: je suis sûr(e) de; vous êtes sûr(e) (s) de 【形容詞の語尾】
- 15) si vous voyagez un jour en Afrique: 【仮定】【国名】
si vous voyagez au Japon ; si vous voyagez en France;
si vous voyagez aux États-Unis
- 16) il vous arrive de passer par là: you happen to pass therethrough 【形式主語:il... de inf.】

- 17) je vous en supplie: en(of it/them; about it/them) そのことについて【中性代名詞】
 18) ne vous pressez pas: se presser (代名動詞)自分をプレスする=急ぐ【代名動詞の否定命令】
 19) un enfant vient: venir: tenir:revenir: se souvenir 【venirの人称変化】

現在		半過去		単純未来	
je viens	nous venons	je venais	nous venions	je viendrai	nous viendrons
tu viens	vous venez	tu venais	vous veniez	tu viendras	vous viendrez
il vient	ils viennent	il venait	ils venaient	il viendra	ils viendront

- 20) il rit; il répond: rire,répondre 第 4 変化 vendre 系動詞【第 4 変化の人称変化】
 21) quand on: 【不定代名詞】
 22) vous devinerez bien qui il est: 【単純未来】【疑問詞・だれ】【間接疑問文】

vous	deviner- erez	qui il est
vous	erez devin	qui il est
you	will divine(=know)	who he is

- 23) soyez gentil(le)(s); ne me laissez pas tellement triste; écrivez-moi: 【肯定・否定命令】
 24) il est revenu...: venir: revenir: se souvenir 【êtreをとる複合過去】

être venu(e) (s) être revenu(e) (s) s' être souvenu(e) (s) de

以上見てきたように、語彙の点では英訳とほぼ変わらないにしても、英文が will ないし should を使用して、「迂言的」に表現しているのに対して、仏文では、一部、単純未来という「総合的」な表現法を残していることが対照的であり、不変化形の should に対しても、(si...) 現在形で表現しているが、これが人称変化「語尾」を伴うため、客観的にみて、フランス語の方が複雑にみえる。文法体系を、名詞系と動詞系に大別して、学習過程の「縦」の課題を、

人称代名詞⇒être, avoir の現在人称変化⇒冠詞類・指示代名詞⇒名詞と動詞(基礎語彙)⇒前置詞⇒疑問詞と疑問文⇒数詞⇒形容詞の語形と位置⇒人称代名詞(所有格・直接・間接補語)⇒否定文⇒肯定・否定命令⇒代名動詞・複合過去⇒半過去・単純未来⇒条件法・接続法⇒受動態・分詞

としたい。大体、名詞系、動詞系半々だが、これだけでも 15 項目になる。週 1 回の授業で、通年で 30 回の授業が可能だとしても、前期・後期に各 2 回、計 4 回の試験を実施し、かつ各期の 1 回目が挨拶、総論、復習にとられるとしたら、残りは実質 24 回しかない。今、「縦」の過程として、15 項目をあげたが、実際は、これに発音と「横」(類型構文、使用語彙、人称変化の変形は無数にある)の問題が加わり、かつ受講者のヤル気の問題もあるので、状況はかなり厳しい。「縦」の 1 項目に 3 回の授業をあてるとすれば、 $24 \div 3 = 8$ である。実際の話、「縦」を 1 年かけて 8 項目扱っても、いったいどれだけのものが、平均的な受講者の「血肉」「教養」として残るのだろうか。外国語の学習は「反復」あつての「進歩」である。筆者はドイツ語の教員だが、ドイツ語も所詮フランス語と事情は一緒である。それは、自分で、自分の担当科目以外の外国語を学習してみて、はじめて解るこ

となのである。

§3. 以下に、“Le Petit Prince”のドイツ語訳“Der kleine Prinz”の最終ページを引用する。引用に際して、新正書法により、bisschen, lasst とした。

Das ist für mich die schönste und traurigste Landschaft der Welt. Es ist die gleiche Landschaft wie die auf der vorletzten Seite, aber ich habe sie nochmals hergezeichnet, um sie euch ganz deutlich zu machen. Hier ist der kleine Prinz auf der Erde erschienen und wieder verschwunden. Schaut diese Landschaft genau an, damit ihr sie sicher wiedererkennt, wenn ihr eines Tages durch die afrikanische Wüste reist. Und wenn ihr zufällig da vorbeikommt, eilt nicht weiter, ich flehe euch an – wartet ein bisschen gerade unter dem Stern! Wenn dann ein Kind auf euch zukommt, wenn es lacht, wenn es goldenes Haar hat, wenn es nicht antwortet, so man es fragt, dann werdet ihr wohl erraten, wer es ist. Dann seid so gut und lasst mich nicht weiter so traurig sein: schreibt mir schnell, wenn er wieder da ist...

英語、フランス語に比べて、ドイツ語の文法体系になにか複雑な印象を与えるものがあるとすれば、それは、名詞系で、冠詞類、指示代名詞、形容詞の付加語的用法において、「格変化語尾」があることと、動詞系で、位置の問題として、「後置」の現象があることである。単一動詞の語形変化においては、たしかに「語尾」が存在することで、英語よりも幾分複雑なイメージを与えるが、しかしそれは、フランス語、イタリア語、スペイン語に比べれば、ほとんど「無変化」に等しい。しかし、この「ほとんど無」が「初修」の学生には、「グリーン・モンスター」(障壁)となる。加えて、上述の「格変化語尾」と「後置現象」があるのである。前章で述べた、実質通年で24回の授業で、「縦」の過程で、精々のところ、10項目の学習が限度であろう。もちろん、綴りと発音の問題には、「寛容」の精神で対処するという条件つきである。さもないと先に進まないからである。さて、10項目の「標準例」を紹介すると、筆者のタイプとしては、

人称代名詞と基礎的な動詞(kommen, lernen, wohnen, heißen, spielen)の現在人称変化⇒疑問詞と疑問文⇒sein, habenの現在人称変化および疑問文⇒冠詞類と格変化語尾⇒人称代名詞の格変化と「～に～を～する」動詞の構文⇒前置詞と副文⇒fahren, sprechen, geben, nehmen, werden, wissenと命令形⇒再帰動詞⇒助動詞 können, wollen, ich möchte等⇒過去形⇒完了形(正確には11項目)

としたい。この場合、「分離・非分離動詞」「受動態」「形容詞の比較変化」「形容詞の語尾変化」「関係代名詞・指示代名詞」「接続法」「数詞」「時刻と日付」「不定詞句・分詞」は除外される。もちろんこれらは「縦」の過程であり、各過程にはそれぞれに無限の「横」の領域が広がる(各種辞書、文学作品、哲学書、各種ジャーナル、会話文等)。

さて、上記の「縦」の11+9=20項目に基づいて、前章、前々章にならって、「星の王子さま」の

- 21) *schreibt mir schnell, wenn er wieder da ist...*: 【命令形と *wenn* 副文】
 英訳“Send me word that he has come back.” およびフランス語原文
 “*écrivez-moi vite qu'il est revenu...*” とともに、*that, que* を使用してい
 るので、独訳も “*dass*” *er wieder da ist* とすべきと思うのだが。

§ 4. 上記の独訳文に関する限り、「分離・非分離動詞」の理解は不可欠である。ただ、「形容詞の語尾変化」は、厳密さを問わない限り、特にその前に定冠詞があれば、少なくとも和訳ないし文意の理解にそう支障はなさそうである。次に、先に筆者が提示した、「縦」の文法事項 11 項目の「キー・ポイント」(キー・センテンス、原型と類型)の例を紹介する。

1) 人称代名詞と基礎的な動詞の現在人称変化

独	英	仏	西	韓
ich komme	I come	je viens	(yo) vengo	チョヌン・オムニダ
du kommst	you come	tu viens	(tú) vienes	
Sie kommen	you come	vous venez	(Vd.) viene	

2) 疑問詞と疑問文

ドイツ語	Wer kommt?	Was lernen Sie?	Wo wohnen Sie?
英語	Who comes?	What do you learn?	Where do you live?
フランス語	Qui viens?	Qu' apprenez-vous?	Où habitez-vous?
スペイン語	?Quién viene?	?Qué aprende Vd.?	?Dónde habita Vd.?
ハングッゴ	ヌグガ・オムニッカ	ムオル・コンブヘヨ?	オディエ・サムニッカ

3) *sein, haben* の現在人称変化および疑問文

sein については、「存在」(*hier ist = here is*)と「指定」(指示)(*das ist = that is*)のふたつを表しうるが、スペイン語とハングッゴでは、両者は区別される。

(スペイン語「指定動詞」 *ser*) ?Quién es Vd.? (どなたですか)
 (同 「存在動詞」 *estar*) ?Dónde está Vd. ahora? (今、どこにおられますか)

(ハングッゴ「指定詞」イダ) イルミ・ムオ・シムニッカ? (お名前は何でしょう)
 (同 「存在詞」イッタ) テハクン・オディエ・イツヨ?(大学はどこにありますか)

また、フランス語とスペイン語は、*avoir, haber* をもって「存在」を表す。

(フランス語) *il y avait une fois un roi...*(むかし王様がいました...)
 (スペイン語) *había una vez un rey...* (同)

ドイツ語、英語では es war / there was だが、フランス語も il était ともいう。

es war einmal ein König.../ once upon a time there was a king.../ il était une fois un roi...

独 sein/haben/es gibt...; 英 to be/to have/there is...; 仏 être/avoir/il y a...; 西 ser y estar/haber y tener/hay...;の人称変化等の詳細については省略する。

「今、何時ですか」	独	Wie spät ist es jetzt?
	英	What time is it now?
	仏	Quelle heure est-il (maintenant)?
	西	?Qué hora es (ahora)?
	韓	チグム・ミヨッシー・イムニッカ?

4) 冠詞類と格変化語尾

これはドイツ語の核心の部分である。定冠詞と不定冠詞を基礎にすえる。その際、学生の負担も考慮して以下の部分に特化して「指導」する。

m.	f.	n.	pl.	m.	f.	n.
der Mann	die Frau	das Kind	die Kinder	ein Mann	eine Frau	ein Kind
des Mannes				eines Mannes		
dem Mann				einem Mann		
den Mann				einen Mann		

そして、女性と中性と複数は1段目と4段目が「同形」ですと指導する。そして、「段」に「格」という名称を与え、1~4格を文を構築する4つのケースと教える。

次に、dieser, aller, welcher, jeder を、その次に、基本的には mein と kein だけ教える。定冠詞の残りの部分(2・3格)は特徴を指摘するだけとし、さらにはその他の冠詞類は意味だけを扱う。

der Mann the man l'homme el hombre ク・サラム

5) 人称代名詞の格変化と「～に～を～する」動詞の構文

独	Ich gebe es ihm. (Ich gebe meinem Freund das Auto.)
英	I give it to him.
仏	Je le lui donne.
西	Yo le doy el auto.
韓	クエゲ・クゴスル・チュムニダ.

6) 前置詞と副文

ドイツ語には、前置詞の格支配と副文における定動詞後置がある。前置詞の格支配は、古典語とロシア語には存在するが、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語には存在しない。ハング

ッゴは、日本語と同様に「助詞」の領域に属するが、接続語の母音・子音の内容により、形態が変わることもある。たとえば、ヌグ「ワ」(だれ「と」)に対して、ク・サラム「クワ」(そのひと「と」)。これは、ドイツ語の am / im 、フランス語の du // des / au(x) 、イタリア語の nel / nella / del / dalla 、スペイン語の al / del と類似の現象であろう。ドイツ語には格変化があり、前置詞も斜格(2/3/4 格)と結びつく。

statt des Vaters	statt meiner	wegen der Krankheit	
mit dem Vater	mit mir	von der Krankheit	auf dem Tisch
für den Vater	für mich	über die Krankheit	auf den Tisch

ドイツ語では、「それで」と「なにで」等の融合形がある。英語の therewith / therefore そして wherewith / whereas と同構造である。

Da ist ein Kugelschreiber. Schreiben Sie damit? (ボールペンがあります。使いますか。)
Womit fahren Sie? Mit dem Zug? (なんで行きますか。列車ですか。)

ドイツ語だけに「副文」=「定動詞後置」という現象がある。

ihr reist eines Tages durch die afrikanische Wüste という文を wenn 副文にすると
wenn ihr eines Tages durch die afrikanische Wüste reist (いつか旅行したときに)

「ここに署名があればいいです」

ドイツ語	Es ist genügend, wenn Sie hier unterschreiben.
英語	It's just enough if you only sign here.
フランス語	Il suffit si vous souscrivez ici.
スペイン語	Es bastante cuando firme aquí.
ハングッゴ	ヨギ・ソミョン・イ・イッス「ミョン」・トゥエヨ.

7) fahren / sprechen usw. と命令形

ドイツ語の動詞の中には、単数形で、特に 2 人称単数と 3 人称単数形で、一定の母音変化等を生じるものがある。これらは、かえって、変化すると英語に近くなる。

(fahren)=(to fare) (schlafen)=(to sleep) (sprechen)=(to sp[r]eak)

jch fahre		ich schlafe		ich spreche	
du fährst	fare well!	du schläfst	sleep!	du sprichst	sp[r]eak!
er fährt		er schläft		er spricht	[r]の脱落

(können)=(can)

(wollen)=(will)

ich kann	I can	ich will	I will
du kannst		du willst	
er kann		er will	

これは、フランス語やスペイン語の以下の変化に近いともいえる。

フランス語	(savoir)		(pouvoir)	
	je sais	nous savons	je peux	nous pouvons
	tu sais	vous savez	tu peux	vous pouvez
	il sait	ils savent	il peut	ils peuvent

スペイン語	(saber)		(poder)	
	sé	sabemos	puedo	podemos
	sabes	sabéis	puedes	podéis
	sabe	saben	puede	pueden

次に「命令形」に移ると、不定詞形で命令形を作る英語とは違って、いわゆる「人称変化」が豊かというか複雑な言語は、各種命令形は、基本的には、人称変化形に依存し、命令の人称によっては、「接続法」を使用する。ドイツ語もそうである。

ドイツ語	Sei!	Komm!	スペイン語	sé	ven (!…!は省略)
	Seid!	Kommt!		Sed	venid
		(以下は、ドイツ語・スペイン語ともに接続法)			
	Seien wir!	Kommen wir!		Seamos	vengamos
	Seien Sie!	Kommen Sie!		Sea(n)	venga(n)

「どうぞすわってください」

ドイツ語	Bitte, setzen Sie sich!
英語	Please sit down!
フランス語	Asseyez-vous s'il vous plait!
スペイン語	!Sirvase tomar asiento, por favor!
ハングッゴ	チョム・アンジャ・ジュセヨ.

8) 再帰動詞は 7) で触れたので省略する。

9) 助動詞 können 等も、7) で若干触れたたので、詳細は省略する。

「日本語が打てるコンピューター」

ドイツ語	ein Computer, womit man auf Japanisch tippen kann
英語	a computer with which one can write Japanese words
フランス語	un computer avec lequel on peut écrire le japonais
スペイン語	un computer con que se puede escribir el japonés
ハングッゴ	イルボノ・ス「ルスー・イン」ヌン・コンピュータ
	(日本語 書「くことができ」る コンピューター)
	(ein auf Japanisch benutz-bar-er Computer)

10) 過去形と 11) 完了形

英語とドイツ語は、「過去形」は一種類で、語形上、強変化動詞と弱変化動詞に分かれる。

英語		ドイツ語	
I came	I loved	ich kam	ich liebte
he came	he loved	er kam	er liebte
you came	you loved	Sie kamen	Sie liebten

ところが、フランス語とスペイン語には、半過去(線過去)と単純過去(点過去)とがあり、しかし、英語・ドイツ語のような「強弱」の区別はない。強いていえば、スペイン語・線過去の *ba / bas / ba* のタイプを「弱」変化、*la / las / la* のタイプを「強」変化といえないこともない。ラテン語のいわゆる「半過去」の語尾変化は、*bam / bas / bat* だった。

一方、フランス語の「複合過去」を「完了形」として考えれば、完了の助動詞として、英語でいうと *have* と *be* を使い分けるのが、ドイツ語とフランス語であり、英語とスペイン語は *have / haber* のみを用いる。

「彼は帰宅しました。」

英語	He has already come home.
スペイン語	Ha ya vuelto a casa.

ドイツ語	Er ist schon nach Haus gekommen.
フランス語	Il est déjà rentré à la maison.

ハングッゴ クサラミ・イミ・チプロ・ワツソヨ、

「未来形」については、「近接未来」と「まさにするところだ (*im Begriff sein, etwas zu tun / être sur le point de faire quelque chose / be on the point of doing something / be about to do*)」の表現を除けば、フランス語とスペイン語は、「不定形」+ *ai / as / a / ons / ez / ont* と *é / ás / á / emos / éis / án* の「単一形」で表現し、英語とドイツ語は「未来の助動詞」を使用する。「単一形」であろうと「助動詞」表現であろうと、「本動詞」に、必要な「意味追加」がなされるわけで、そうなると、「韓国語」「日本語」のような「断定」(時枝文法における「辞」)後にいくらかでも「願望・謙遜・詠嘆・疑問」の助動詞・助詞を連ねることができる言語の方が、「趣き」があるようである。

「なるようになるさ」

スペイン語	Que será será.
フランス語	Ce qui sera sera.
ドイツ語	Was sein wird, wird sein.
英語	What will be will be.

